

世界遺産はいつどのように学ぶのか

〈静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 主幹 美澤 綾子〉

静岡県富士山世界遺産センターの展示内容は、学校で学習することとどのくらい結びつくのか。これは4月に教育普及担当として着任してから、児童・生徒を案内するたびに思うことである。

そもそも「世界遺産」という用語は何年生で学習するのか。小学校から高等学校までの教科書を全て調べるには途方もない時間がかかるので、学習指導要領のPDFファイルで「世界遺産」と「世界文化遺産」を全文検索することから始めた。なお、「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保たれるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準である。学校で使われる教科書はこれを基に作られているため、何年生で何を学習するかがわかる。

では、学習指導要領では、いつどの教科で「世界(文化)遺産」が登場するのか。全文検索の結果、小学校社会の第6学年で次のような記述を見つけた。

〔第6学年〕

2 内容

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

3 内容の取扱い

(2) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

イ ア(中略)については、例えば、国宝、重要文化財に指定されているものや、世界文化遺産に登録されているものなどを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮すること。

(文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」より抜粋)

これらの記述を基に作成された教科書は、どのような構成になっているのか。小学校6年の社会の教科書には、「歴史の学習を、さまざまな文化財にも注目しながら進めていこう」と国宝と重要文化財、世界遺産について解説しているものもあれば、キーワードとして世界遺産を紹介しているものもあった。共通しているのは、三内丸山遺跡、仁徳天皇陵(大仙)古墳、法隆寺、唐招提寺、金閣、銀閣が本文に登場することである。また、それぞれの写真が掲載されており、写真の説明には「世界遺産」のマークが入っている。さらに、コラムや発展の形で中尊寺や石見銀山、富岡製糸場を大きく取り上げているものもあった。

今回、学習指導要領と教科書を確認することで、全国一律に小学校6年で世界遺産について学ぶことがわかった。今後は、富士山世界遺産センターの展示内容と、学校で学ぶことの結びつきについて探っていきたい。